広報まむろがわ
2014. 8月号

郷土の英傑 鮭延秀綱物語 ⑩

十　長谷堂の戦い（出羽合戦）下

「奥羽永慶軍記」（戸部一愚斉　著）によると、秀綱の家臣指鍋城主鳥海勘兵衛は、追いすがる敵を切り倒し、秀綱親子を敵兵から遠ざけ危機を救い討死した。

長谷堂の戦いが終わって、勘兵衛の妻が夫の遺言状を持って鮭延城を訪れた。その遺書は「慶長三年の秋に、出羽守（義光）様の北の方が山寺参拝をなされた時、私も殿（秀綱）のお供をしました。北の方様の女房の中に美しい方がおられました。思い悩んだ末、文に認め女房の元へ送りました。しかし何の返事もありませんでしたが、何度か文を送り女房の心を動かすことが出来ました。女房は返書を認め侍女に届けるように頼んだところ、その侍女は懐中から落とし、出羽守様に届けられました。そして出羽守様は両人に死罪を命じられました。

そのことを知らされた殿は出羽守様の御前に参られ『此の度の私の家臣鳥海勘兵衛が犯した罪は、主臣一体の罪でございますが、鳥海は去る庄内の戦いで数度の手柄を立てた者で、その恩賞として何卒彼の女房を賜りたい。これしきの罪で天晴れ豪の者を失うことは我が大将の落ち度にもなりましょう。』と強く諫言されると出羽守様も顔を和らげ、『彼の女房を鳥海に与えよう。』と仰せられた。鳥海はそれ以来、いつでも殿に命を捧げる決心でいた次第であります。」という内容であった。

秀綱はその遺書を読んで、あまりの義勇の心に感涙し、死を悼んだ。

勘兵衛の妻は義光の北の方の腰元で花輪。二人は結婚してまだ七ヶ月もたたない新婚であったが、毎日の会話にも「二人がこうして結ばれたのはみな殿のご恩によるもの。それに報いるにはいつでも命を捧げよう」と話して、遺言まで書いていたのである。

花輪は夫の葬式を済ませ、初七日の夕方、仏前で自害して果てた。この話を聞いた者はみな涙を流さずにはいられなかった。

と物語風の逸話をあげている。

さて「長谷堂の戦い」の結末であるが、六月二十九日、関ヶ原の戦いで西軍（石田三成軍）の敗報が兼続のもとに飛び込んできた。兼続は全軍の撤退を始めた。

（真室川町歴史研究会）

「長谷堂の戦い屏風絵」（戸部一愚斉　作）
秀綱と鳥海勘兵衛が上杉軍を追いかけている

表紙の紹介

成人式

8月14日、成人式が真室川町イベントハウス遊楽館で行われました。今年の新成人対象者（平成5年4月2日～平成6年4月1日生まれ）は101名。うち男子40名、女子28名、計68名が出席しました。

式典では、町長の式辞に続いてご来賓の方々からのご祝辞をいただき、大人としての心構えを新たにしていました。新成人の誓いの言葉「誓詞」では、新成人代表川又建也さん（写真）が、成人式を迎えられた喜び、これまでの家族・地域の支えに対する感謝の意を述べた後、「大人としての自覚を持ち、何事も途中で投げ出さず、最後までやりぬく志を大切にしていきたい。」と抱負を述べ、町長と固い握手を交わしていました。

発行・編集　真室川町役場　企画課　ホームページ http://www.yume-net.org/
〒999-5312　山形県最上郡真室川町大字新町127－5　TEL 0233(62)2111　FAX 0233(62)2731

VEGETABLE OIL INK
「広報まむろがわ」は再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。